

S-Stage eco N20 ボアアップキット 181cc 取扱説明書

製品番号	01-05-0322 (カム無)
	01-05-0323 (カム付属)

適応車種	GROM	(JC61-1000001 ~ 1299999)
		(JC61-1300001 ~ 1399999)
		(JC75-1000001 ~)
	MSX125 タイモデル (MLHJC61)	
	MSX125SF タイモデル	

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。

使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。

万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

FI コントローラーについてのご注意

当製品を取り付け、ノーマル ECU のままで使用すると、エンジンが重大な故障を起こす可能性があります。

車種やスロットルボディーに合った弊社製 FI コントローラー “FI コン 2” または “FI コン TYPE-e” を必ず同時装着して下さい。

FI コン 2 の車種・スロットルボディー別品番

GROM JC61-1000001 ~ 1299999: ノーマルスロットルボディー用	05-04-0016
GROM JC61-1000001 ~ 1299999: 弊社製ビックスロットルボディー用	05-04-0025
GROM JC61-1300001 ~ 1399999/JC75-1000001 ~ : ノーマルスロットルボディー用	05-04-0034
GROM JC61-1300001 ~ 1399999/JC75-1000001 ~ : 弊社製ビックスロットルボディー用	05-04-0035
MSX125 タイモデル (MLHJC61): ノーマルスロットルボディー用	05-04-0020
MSX125 タイモデル (MLHJC61): 弊社製ビックスロットルボディー用	05-04-0026
MSX125SF タイモデル: ノーマルスロットルボディー用	05-04-0034
MSX125SF タイモデル: 弊社製ビックスロットルボディー用	05-04-0035

FI コン TYPE-e の車種別品番

GROM JC61-1000001 ~ 1399999 /MSX125 タイモデル (MLHJC61) /MSX125SF タイモデル	05-04-0105
GROM JC75-1000001 ~	05-04-0106

※ S-Stage ボアアップキットにて、FI コン TYPE-e を併用される場合は、必ず弊社製フューエルインジェクタをご使用下さい。

フューエルインジェクタ	00-00-0487
-------------	------------

デコンプについてのご注意

デコンプを取り付ける場合は純正カムシャフトの分解、プーラー、プレス等の特殊工具が必要になります。

デコンプパーツを取り付けない場合、エンジンの排気量、バッテリーの使用状況に拠ってはエンジンの始動が困難になる場合があります。

なお、弊社ではデコンプ部品の組み替えサービスを有償にて行っています。(12-07-0004)

スパークプラグについてのご注意

スパークプラグは必ず CPR7EA-9 (NGK) 又は U22EPR-9 (DENSO) 相当に交換して下さい。その後、個々に合った番数を決定して下さい。

クランクシャフトについて

弊社製ボアアップキットの装着により、エンジン出力、トルクが大幅にアップする為、クランクシャフトには、ねじれやたわみ等の負担が増加します。

弊社では、クランクシャフトの負担を軽減させる為、クランクシャフトサポートアダプターの同時装着をお勧めします。

クランクシャフトサポートアダプターは、クランクシャフトフライホイール側末端にボールベアリングによる支持を追加する事により、ねじれやたわみ等を抑え、クランクシャフトの耐久性を高めます。

GROM JC61-1000001 ~ 1299999/MSX125 タイモデル (MLHJC61) 用	01-10-0134
GROM JC61-1300001 ~ 1399999/JC75-1000001 ~ /MSX125SF タイモデル用	01-10-0138

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。

◎当製品を取り付けると原付 2 種の排気量を超えるため一般公道の走行は出来ません。一般公道を走行すると違反となり、運転者ご本人が罰せられる対象となります。

◎MSX125 及び MSX125SF は、タイ国内において予期せず仕様の変更された場合、この製品が取り付け出来ない恐れがあります。予めご了承下さい。

◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。

◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。

◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。

◎当製品は上記適合車種の専用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。

◎当製品の取り付けには上記適合車種にあった純正サービスマニュアルを参照し、確実に作業を行って下さい。

◎取り付けの際には工具等を準備し、取り付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。

◎この取扱説明書は、基本的な技術や知識を持った方を対象に作成しております。

取り付けに自信の無い方や、取り付けに必要な工具等をお持ちで無い場合は取り付け作業は行わずに、指定工場、又は認証工場などの車両整備が可能な業者へ取り付けをご依頼下さい。

◎必ず慣らし運転を行って下さい。

◎当製品を取り付けると出力アップに伴い発熱量も増加します。長時間の高負荷走行にはオイルクーラーキットの装着をお勧め致します。

◎オイルクーラーキット又はオイル取り出しのバンジョーボルト、及びバンジョーは弊社製の GROM 専用品が必要です。

他社製品や別車種用品との組み合わせは絶対に行わないで下さい。

◎ボルト、ナット、ノックピン、パッキン類の一部は再使用しますが、摩耗や損傷が激しいものは再使用せず必ず新品のものをご使用下さい。

◎運転者の体重や走行状況により、2 次減速比の変更が必要になる場合があります。

◎ガイドローラー部のシーリングワッシャは同梱させておりません。別途お買い求め頂く必要があります。特に損傷が激しい物は再使用せず新品のシーリングワッシャをご使用下さい。

ホンダ純正品番 : 90475-KWB-600

株式会社 スペシャルパーツ 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東 3-5-16

TEL:0721-25-1357 FAX:0721-24-5059 URL <http://www.takegawa.co.jp>

特 徴

- ノーマルシリンダーヘッドを使用し、ボアアップするキットです。
- ピストン径をφ 52.4mm からφ 63mm にボアアップし排気量を 180.5cc に、圧縮比をノーマルの 9.3 : 1 から 10.5 : 1 に調整し、レギュラーガソリンの使用に対応しながらノッキングが起りにくく、力強いトルクを感じる事が出来ます。
- シリンダーに耐久性、気密性、放熱性に優れたオールアルミセラミックメッキシリンダーを使用。オイル通路取り出しボスを設け、オイルクーラーキットに対応する高機能なシリンダーです。
- 又、オイルプラグボルトには M5 ネジ穴を設けていますので、弊社製 M5 温度センサーの取り付けが可能です。
- 弊社製エキゾーストマフラーとの組み合わせにより更なるパワーアップが望めます。

注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害が想定される内容を示しています。

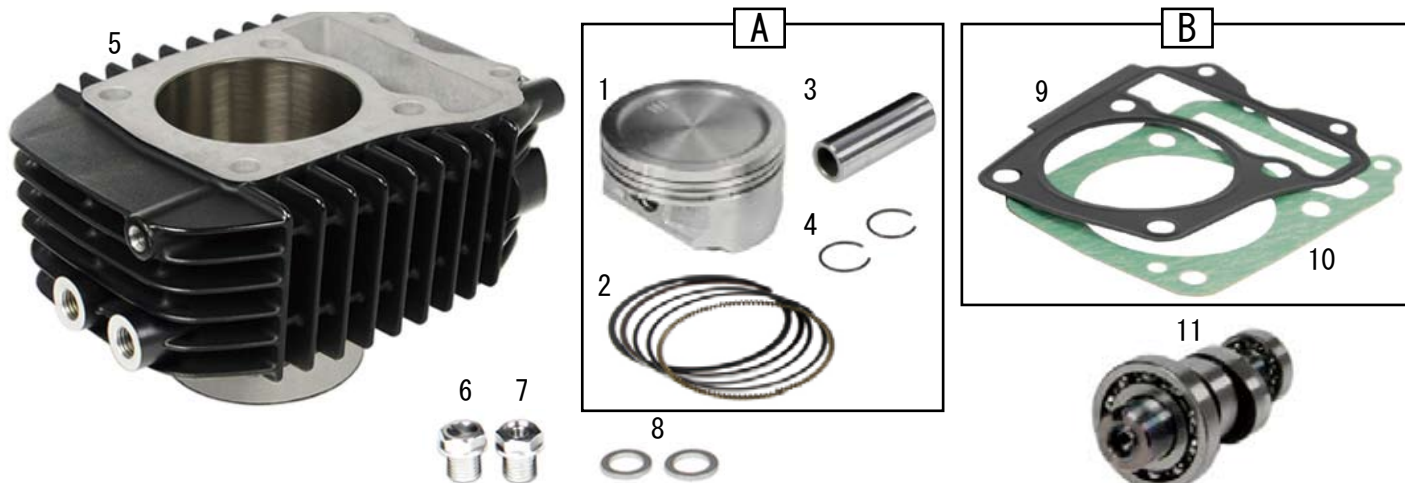
- 作業等を行う際は、必ず冷間時（エンジン及びマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品の破損、ケガの原因となります。）
- 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。（ボルトおよびナットの破損、脱落の原因となります。）
- 製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。（ケガの原因となります。）
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みがあれば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。
（部品の脱落の原因となります。）※シリンダーヘッドは、必ず規定トルクで増し締めを行ってください。
- ガスケット、パッキン類は、必ず新品部品を使用して下さい。
- また、再使用する部品については、よく点検し摩耗や損傷がある場合は、必ず新品部品と交換して下さい。

警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- エンジンを始動させての点検は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。
（一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）
- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を確実に安定させ、安全に作業を行ってください。（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）
- 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。
（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）
- 点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。
（そのまま使用すると事故につながる恐れがあります。）
- ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が回りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行ってください。

◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品および価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
◎クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後 1 ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。
但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。
なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいませお願い致します。

製品内容



番号	部 品 名	個数	リペア品番
1	ピストン 63mm	1	13101-K26-T61
2	ピストンリングセット 63mm	1	01-15-0106
3	ピストンピン 13x38.5	1	13112-165-T02
4	ピストンピンサークリップ 13x1	2	00-01-0003 (6 ケ入り)
5	シリンダー 63mm	1	01-01-0114
6	オイルプラグボルト	1	00-07-0072 (シーリングワッシャ付)
7	オイルプラグボルト (M5 穴付)	1	00-07-0090 (シーリングワッシャ付)
8	シーリングワッシャ 10mm	2	00-07-0010 (10 ケ入り)
9	シリンダーヘッドガスケット 64mm	1	12251-KYZ-T00
10	シリンダーガスケット	1	00-01-0370
11	カムシャフト COMP.	1	01-08-0171

記号	部 品 名	リペア品番
A	ピストンキット	01-02-0165
B	ガスケットキット	01-13-0121

※ 01-05-0322 には 11 カムシャフトは付属しません。

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。

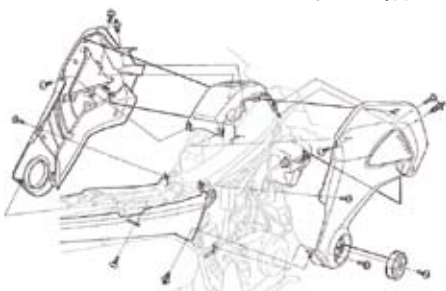
尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいませお願い致します。

- ・水平な場所でメンテナンススタンドにて車両をしっかりと安定させる。

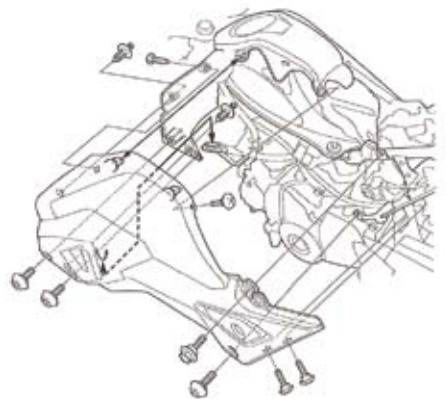
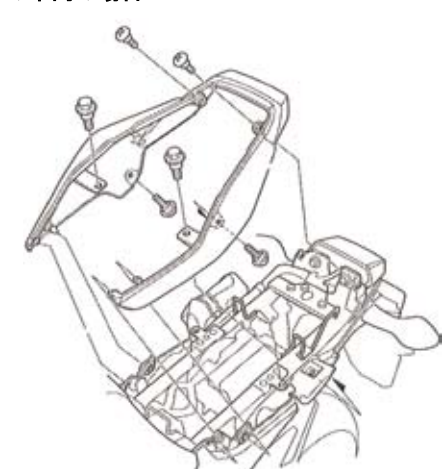
●外装部品の取り外し

- ・シートを取外し、ホンダ純正サービスマニュアルを参考にして左右のシュラウドを取り外す。

＜JC61-1000001 ～ 1299999 の車両の場合＞



＜JC61-1300001 ～ 1399999/JC75-1000001 ～ の車両の場合＞

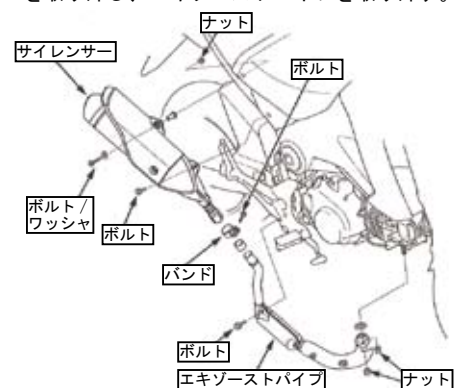


●（ノーマル）エキゾーストマフラーの取り外し

※エキゾーストマフラーが変更されている場合は、そのエキゾーストマフラーの取り扱い説明書に従う事。

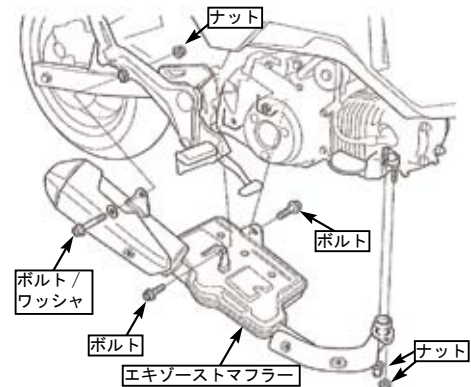
＜JC61-1000001 ～ 1299999 の車両の場合＞

- ・バンドのボルトを緩め、サイレンサーのボルト及びボルト / ナットを取り外してサイレンサーをエキゾーストパイプから抜き取る。
- ・シリンダーヘッド部のナット 2 個とボルト 1 個を取り外し、エキゾーストパイプを取り外す。



＜JC61-1300001 ～ 1399999/JC75-1000001 ～ の車両の場合＞

- ・各ボルト、ワッシャー、ナットを取り外し、エキゾーストマフラーを取り外す。



●インレットパイプ / スロットルボディー / エアクリーナーケースの取り外し

- ・スロットル開度センサー 3P カプラ、インジェクター 2P カプラ、ソレノイド 2P カプラ（GROM の場合）の接続を外す。



＜JC75-1000001 ～ の車両の場合＞

- ・ジョイントホースを取り外す。



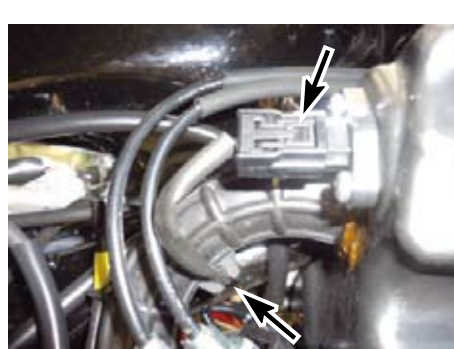
- ・ボルトワッシャーを取り外し、スロットルドラムカバーを取り外す。



- ・インレットパイプのボルト 2 本を取り外し、インシュレーターを取り出す。インシュレーター両面の O リング 2 個の紛失に注意する事。



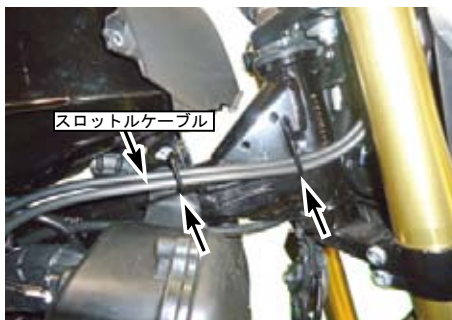
- ・エアクリーナーケースの吸気温センサーのカプラの接続を外し、コネクティングチューブのクランプから配線を外す（GROM の場合）。



- ・エアクリーナーケースからクランクケースブリーザーホース、フューエルブリーザーホースの接続を外す。



- ・フレームのガイドからスロットルケーブルを外す。



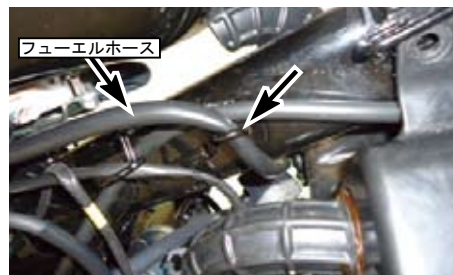
- ・フレームのガイドからフューエルホースを外す。



- ・エアクリーナーケースとフレームを止めているボルト2本を取り外す。



- ・インレットパイプ / スロットルボディー / エアクリーナーケースがつながたまま取り外しながらフレームのガイドからフューエルホースを取り外す。
エンジン、フレーム間から抜き取り、フューエルホースに負担が掛からないようにフレーム等に置いておく。

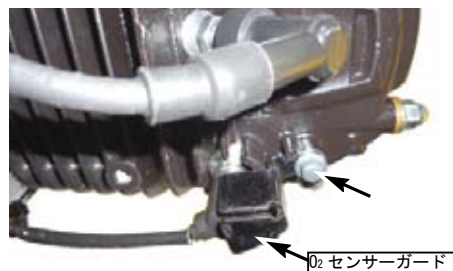


● 0₂ センサーの接続を外す

※ 0₂ センサーは衝撃に弱いので取り扱いに注意。
落としたり衝撃を与えた場合は新品に交換する事。

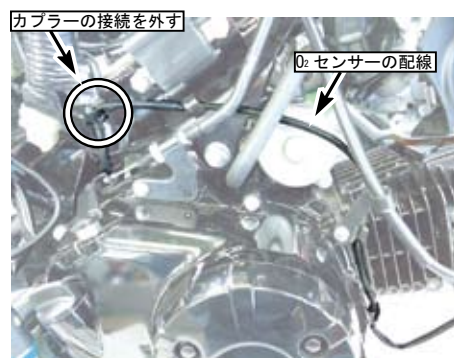
<JC61-1000001 ~ 1299999 の車両の場合>

- ・ボルト1本を取り外し、シリンダーヘッドの0₂センサーガードを取り外す。0₂センサーキャップを回すのを1/2回転以下に抑えながらセンサーから取り外す。



<JC61-1300001 ~ 1399999/JC75-1000001 ~ の車両の場合>

- ・0₂ センサーの配線のカプラーの接続を外し、配線を各クランプから取り外す。

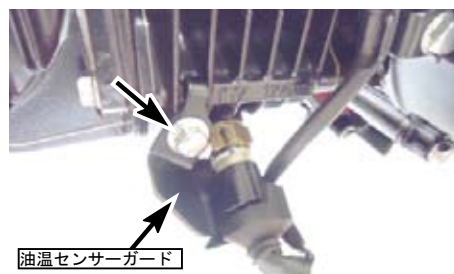


● シリンダーヘッドの取り外し

- ・スパークプラグキャップを取り外し、スパークプラグを取り外す。



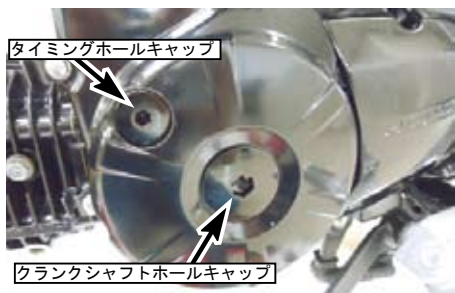
- ・ボルトを取り外し、シリンダーの油温センサーガードを外す。



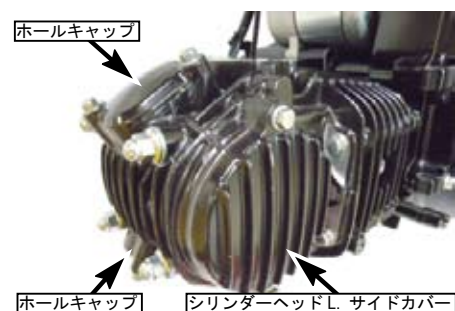
- ・油温センサーのカブラの接続を外す。油温センサー及びシーリングワッシャを取り外す。



- ・タイミングホールキャップ及びクランクシャフトホールキャップを取り外す。



- ・ボルト2本をそれぞれ取り外しシリンダーヘッドL. サイドカバー / O リング、インテーク側、エキゾースト側のホールキャップ / O リングを取り外す。



- ・クランクシャフトを反時計方向に回し、カムスプロケットの“0”マークをシリンダーヘッドの突起に合わせる。



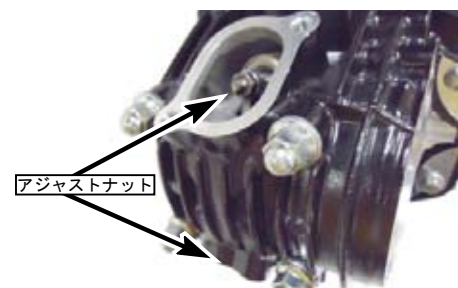
- ・オイルフィルターボルトとシーリングワッシャを取り外す。



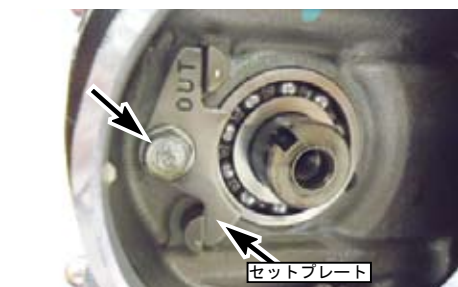
- ・ユニバーサルホルダーにてカムスプロケットを固定し、カムスプロケットボルトを取り外し、カムスプロケットを取り外す。



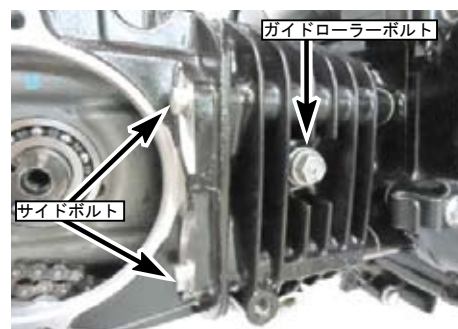
- ・インテーク、エキゾースト共にロッカーアームのアジャストナットを緩め、アジャストスクリューを緩めておく。



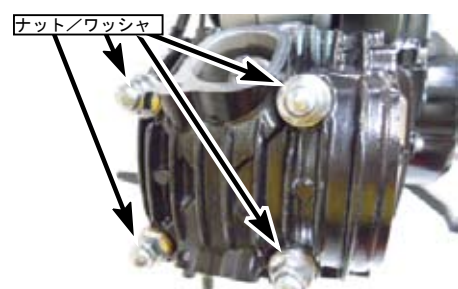
- ・セットプレートのボルトを緩めておく。



- ・シリンダーのガイドローラーボルトを緩めておく。シリンダーヘッドのサイドボルト2本を取り外す。



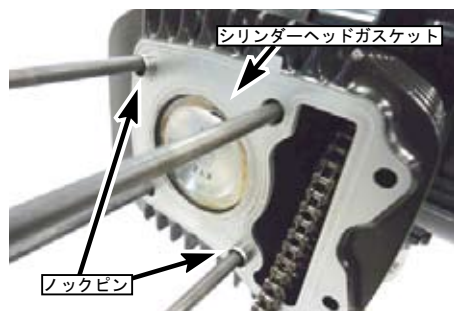
- ・シリンダーヘッドナット4個を対角に数回に分けて緩め、ワッシャ4個と共に取り外す。



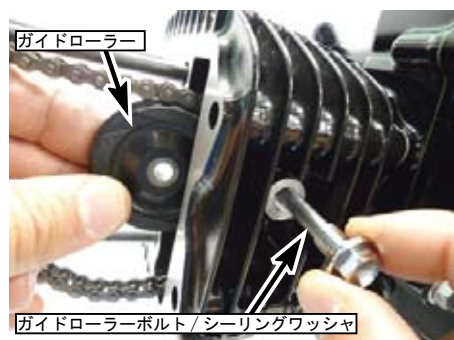
- ・シリンダーヘッドを取り外す。

●シリンダー、ピストンの取り外し

- ・シリンダーヘッドガスケットとノックピン2個を取り外す。



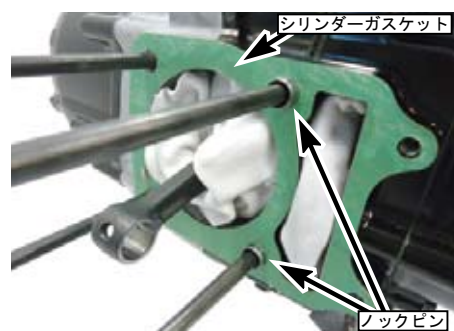
- ・シリンダーのガイドローラーボルト / シーリングワッシャを取り外し、ガイドローラーを取り出す。



- ・シリンダーを取り外す。
※クランクケース内に部品が入り込まないようにクランクケース開口部をウエス等でふさいでおく。
- ・ピストンピンサークリップの片側を外し、ピストンピンを外し、ピストンを取り外す。



- ・シリンダーガスケットとノックピン2個を取り外す。クランクケースにシリンダーガスケットがこびり付いている場合はスクレイパーにて剥がす。



●シリンダーの干渉の確認

※クランクケースの個体差により、シリンダーのクランクケース挿入部（スカート部）とクランクケースが干渉する場合がある。干渉したまま使用すると、エンジントラブルの原因となるので、必ず確認する事。

・ノックピン2個を使用し、付属のシリンダーのみをクランクケースに取り付け、シリンダースカートとクランクケースの干渉の確認を行う。

●ピストンの取り付け

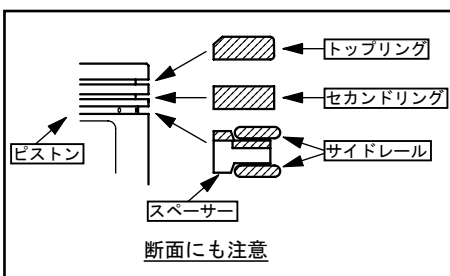
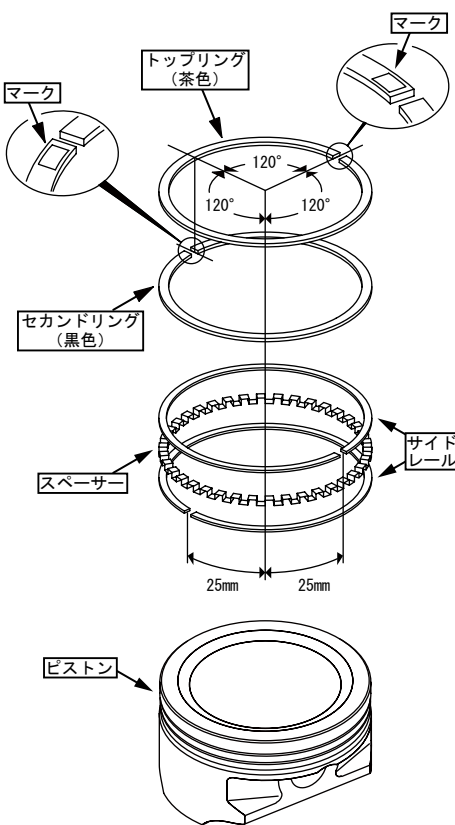
・付属のピストンのピストンリング溝をエアブローし、各ピストンリングを取り付ける。

※TOP リング及び2ND リングはマークを上にして取り付け。

※ピストン及びピストンリングを傷つけたり、破損させない事。

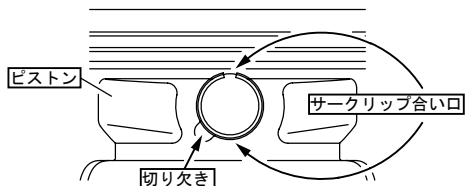
※取り付け後、リングがなめらかに回転する事を確認する事。

※リングの合口は、図のように 120 度間隔で取り付けする事。

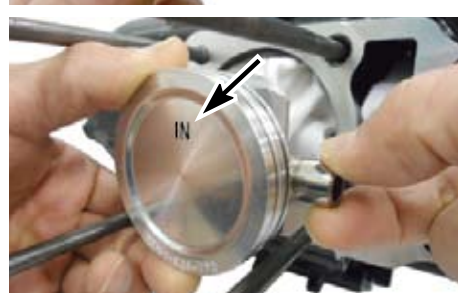


・片側のピストンピン穴のサークリップ溝にサークリップを取り付ける。

※ピストンピンサークリップの合い口は切り欠き部を避けてピストン上下方向に向けて取り付け。

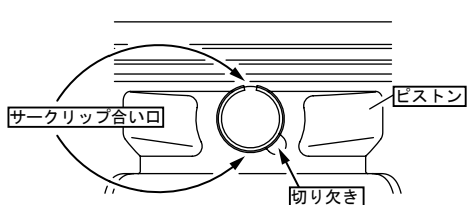


・コンロッド小端部、ピストンピン穴にエンジンオイルを塗布しピストンピンにモリブデングリスを塗布しピストン頭部にある“IN”マークをインテーク側に向け、ピストンピンを取り付ける。



・ピストンピンサークリップ溝にピストンピンサークリップを取り付ける。

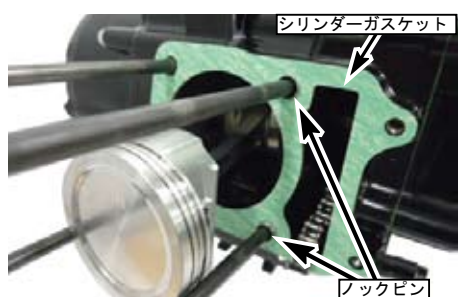
※ピストンピンサークリップの合い口は切り欠き部を避けてピストン上下方向に向けて取り付け。



●シリンダーの取り付け

・クランクケースのシリンダー取り付け面を清掃し、クランクケース開口部につめていたウエスを取り外しておく。

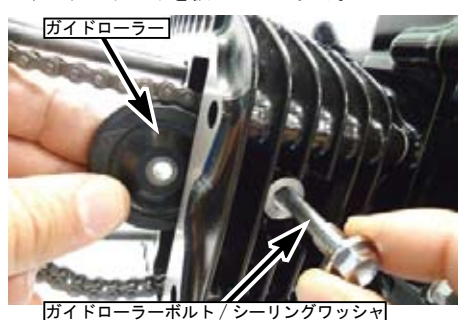
・クランクケースにノックピン2個とキット内の新品のシリンダーガスケットを取り付ける。



・ピストンリング部にエンジンオイルを塗布し、なじませる。シリンダー内周部を清掃した後エンジンオイルを塗布する。カムチェーンをシリンダーに通し、ピストンリングを指で圧縮しながらシリンダーを取り付ける。



・ガイドローラーをシリンダーの取り付け穴に合わせ、ガイドローラーボルト / 新品のシーリングワッシャを仮止めしておく。

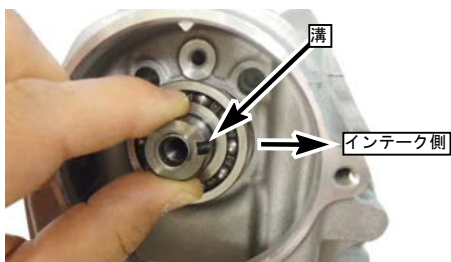


●カムシャフトの取り外し

・ボルトを取り外し、セットプレートを取り外す。ロッカーアームシャフト、ロッカーアーム、ニードルベアリングを取り外す。



- ・カムシャフトの溝をインテーク側に向け、シリンダーヘッドから取り外す。



●デコンプパーツの取り付け（カム付）

※デコンプパーツを取り付けない場合、エンジンの排気量、バッテリーの使用状況に拠ってはエンジンの始動が困難になる場合がある。取り付けない場合は「カムシャフトの取り付け」からの手順に従う事。

※取り外し、取り付けにはベアリングブーラーやプレス等の特殊工具を使用し、作業を行う事。

- ・ノーマルカムシャフト、キット付属のカムシャフトからEX側のベアリングを取り外す。
- ・ノーマルカムシャフトからデコンプパーツを取り外す。
- ・取り外した逆の手順でキット付属のカムシャフトにデコンプパーツを取り付ける。



- ・各部にモリブデン溶液を塗布する。
- ・ベアリングを圧入する。

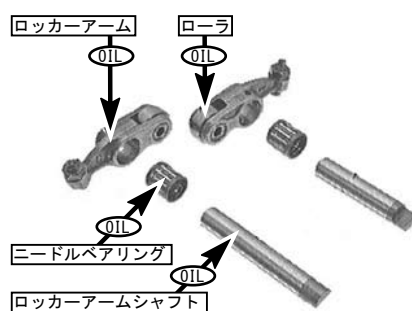
●カムシャフトの取り付け

- ・キットのカムシャフトのカム摺動部、ベアリングにエンジンオイルを塗布する。

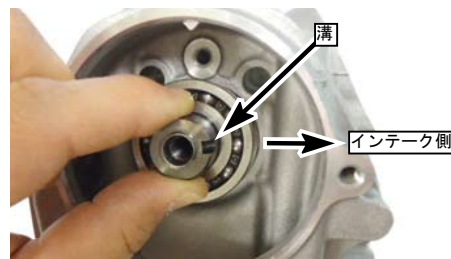


- ・ロッカーアームシャフトの摺動部とニードルベアリングにエンジンオイルを塗布する。ロッカーアームの内面とローラの摺動部にエンジンオイルを塗布する。

※エキゾーストロッカーアームシャフトはインテークロッカーアームよりも長い。



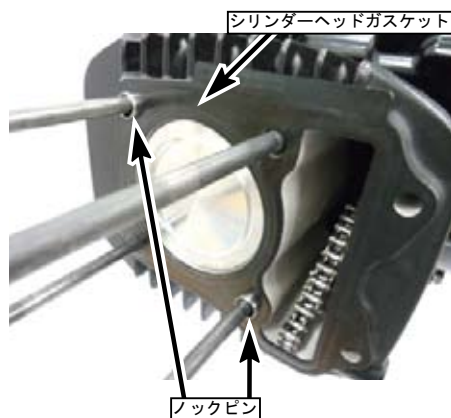
- ・カムシャフトの溝をインテーク側に向け、シリンダーヘッドから取り付ける。



- ・ロッカーアーム、ニードルベアリング、ロッカーアームシャフトをシリンダーヘッド内に取り付ける。
- ・セットプレートの“OUT”マークを外側にしてシリンダーヘッドにセットし、ボルト1本にて仮止めする。

●シリンダーヘッドの取り付け

- ・シリンダーとシリンダーヘッドの合わせ面を清掃する。ノックピン、キット内のシリンダーヘッドガスケットをシリンダーに取り付ける。

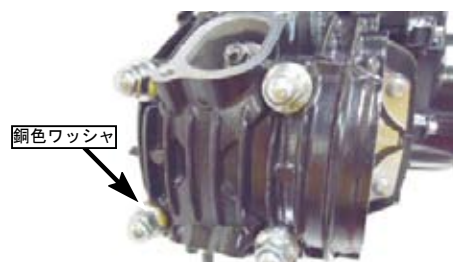


- ・カムチェーンをシリンダーヘッドに通し、シリンダーヘッドを取り付ける。



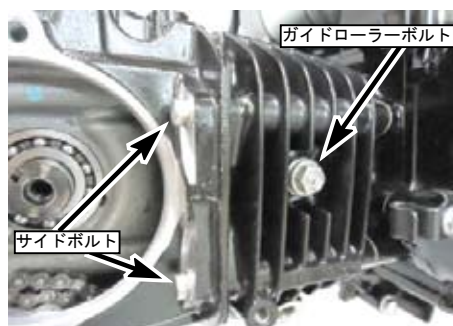
- ・銅色のワッシャをヘッドに向って左下に、他の銀色のワッシャ3個もセットし、シリンダーヘッドナット4個、シリンダーヘッドのサイドボルト2本を取り付ける。
- ・シリンダーヘッドナット4個を対角に数回に分けて締め付け、規定トルクにて締め付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
シリンダーヘッドナット
トルク：24N・m (2.4kgf・m)



- ・シリンダーヘッドのサイドボルト2本を交互に数回に分けて締め付け、規定トルクにて締め付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
サイドボルト
トルク：10N・m (1.0kgf・m)



- ・仮止めしていたシリンダーのガイドローラーボルトを規定トルクにて締め付ける。

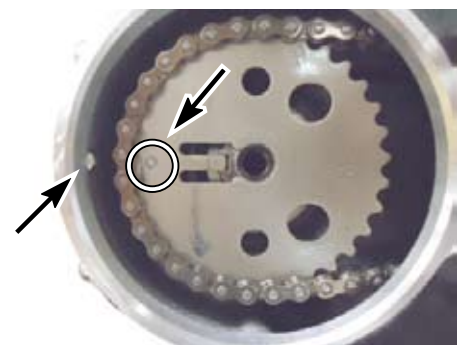
⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
ガイドローラーボルト
トルク：10N・m (1.0kgf・m)

- ・仮止めしていたカムシャフトのセットプレートのボルトを規定トルクにて締め付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：12N・m (1.2kgf・m)



- ・フライホイールの“T”マークがジェネレータカバーの合わせマークに合っているか確認し、カムプロケットの“0”マークがシリンダーヘッドの突起と合うようにカムチェーンを付け、カムシャフトの溝にカムプロケットの突起を合わせて取り付ける。

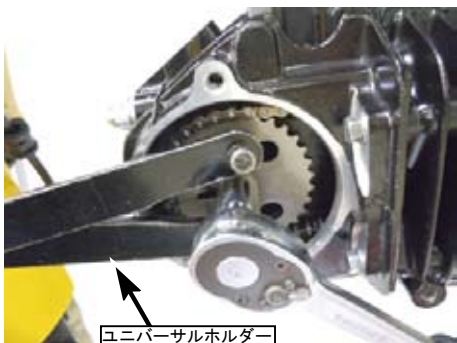


- ・ユニバーサルホルダーにてカムプロケットを固定し、カムプロケットのボルトを規定トルクにて締め付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。

ボルト

トルク：27N・m (2.8kgf・m)



ユニバーサルホルダー

- ・クランクシャフトを反時計方向に2回転し、フライホイールの“T”マークをジェネレータカバーの合わせマークに合わせ、カムプロケットのタイミングマークがシリンダーヘッドの合わせマークと合っている事を確認する。

- ・ボルト穴にエンジンオイルを少量注入し、オイルフィルターボルトとシーリングワッシャを取り付け、規定トルクにて締め付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。

オイルフィルターボルト / シーリングワッシャ

トルク：10N・m (1.0kgf・m)



オイルフィルターボルト / シーリングワッシャ

●バルブクリアランスの調整

- ・フライホイールの“T”マークがジェネレータカバーの合わせマークに合い、且つカムプロケットの“0”マークがシリンダーヘッドの突起と合っている事を確認する。

- ・ロッカーアームのアジャストスクリューとバルブステムエンドの間にシクネスゲージを差し込み、アジャストスクリューを締め込んでいき、シクネスゲージが少し抵抗がある程度に引き抜けるぐらいに合わせてアジャストナットを締め付ける。

バルブクリアランス

IN：0.10mm

EX：0.17mm

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。

アジャストナット

トルク：9N・m (0.9kgf・m)



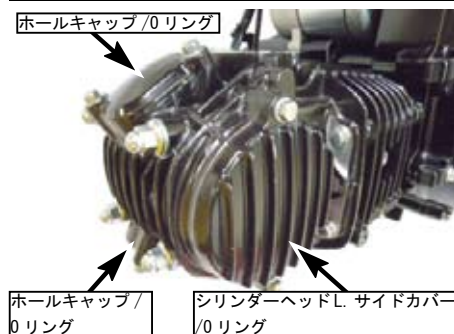
- ・バルブクリアランス調整後、反時計方向にフライホイールを2回転した後で“T”マークとタイミングマークをそれぞれ合わせ、バルブクリアランスが変化していないか点検する。変化している場合は再度調整し、合うまでこの作業を繰り返す。

- ・シリンダーヘッドL. サイドカバー / Oリングをシリンダーヘッドに取り付け、ボルト2本を取り付ける。インテーク側、エキゾースト側それぞれのホールキャップ / Oリングをボルト各2本にて取り付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。

ボルト

トルク：10N・m (1.0kgf・m)



ホールキャップ / Oリング

シリンダーヘッドL. サイドカバー / Oリング

- ・タイミングホールキャップ及びクランクシャフトホールキャップにOリングが付いている事を確認して取り付け、規定トルクにて締め付ける。

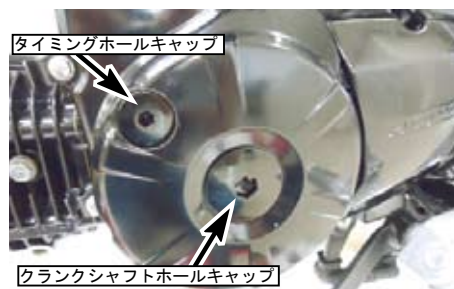
⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。

タイミングホールキャップ

トルク：6N・m (0.6kgf・m)

クランクシャフトホールキャップ

トルク：8N・m (0.8kgf・m)



クランクシャフトホールキャップ

- ・油温センサー及びシーリングワッシャをシリンダーに取り付け、規定トルクにて締め付ける。油温センサーのカプラを接続する。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。

油温センサー / シーリングワッシャ

トルク：15N・m (1.5kgf・m)



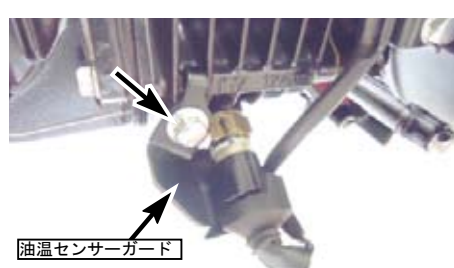
油温センサー / シーリングワッシャ

- ・油温センサーガードをボルト1本にてシリンダーに取り付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。

ボルト

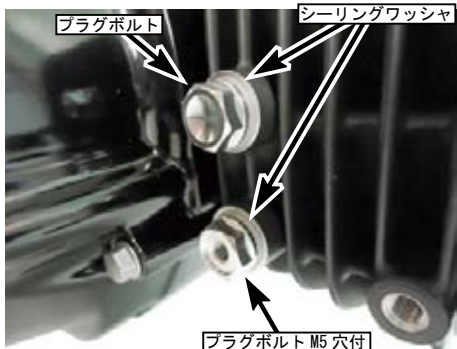
トルク：12N・m (1.2kgf・m)



油温センサーガード

- ・付属のシリンダーのボス部2箇所にプラグボルト / シーリングワッシャを取り付ける。
プラグボルト M5 穴付は、エンジン取り付け時に下側になるよう取り付け。
- ※オイルクーラーキットを取り付ける場合は、そのキットの取扱説明書に従う事。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
プラグボルト / シーリングワッシャ
トルク：12N・m (1.2kgf・m)



- ・スパークプラグを取り付け、規定トルクにて締め付ける。スパークプラグキャップを取り付ける。

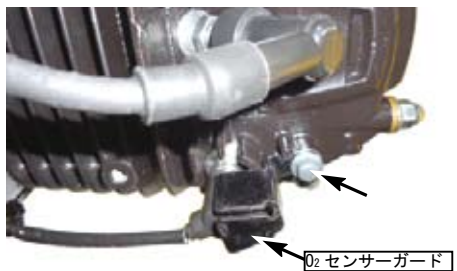
⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
スパークプラグ
トルク：16N・m (1.6kgf・m)

● O₂ センサーの接続

<JC61-1000001 ~ 1299999 の車両の場合>

- ・O₂ センサーのキャップをまっすぐに接続する。O₂ センサーガードをボルト1本にてシリンダーヘッドに取り付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：12N・m (1.2kgf・m)



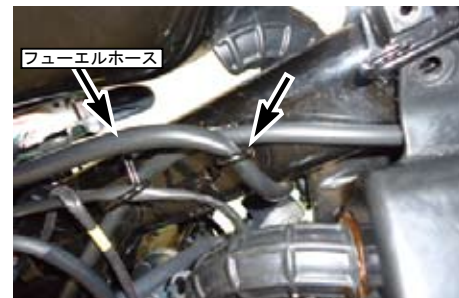
<JC61-1300001 ~ 1399999/JC75-1000001 ~ の車両の場合>

- ・O₂ センサーの配線をワイヤリングし、カブラーを接続する。

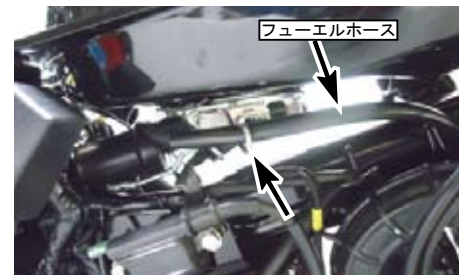


● インレットパイプ / スロットルボディー / エアクリーナーケースの取り付け

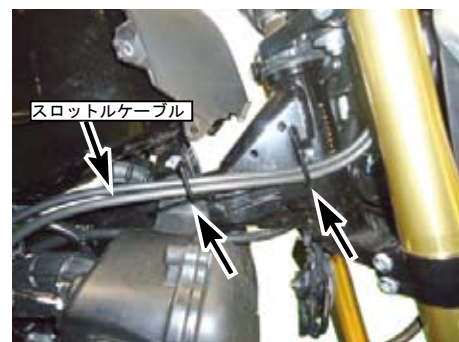
- ・インレットパイプ / スロットルボディー / エアクリーナーケースをセットしながら、フレームのガイドにフューエルホースをセットし、エアクリーナーケースのボルト2本を仮止めする。



- ・フレームのガイドにフューエルホースをセットする。

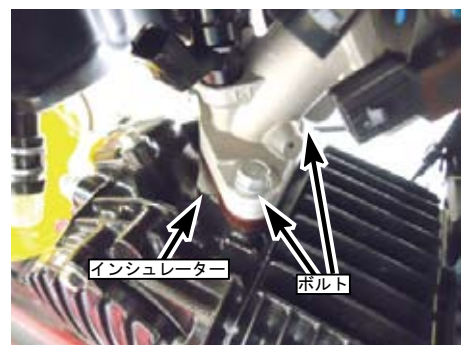


- ・フレームのガイドにスロットルケーブルをセットする。



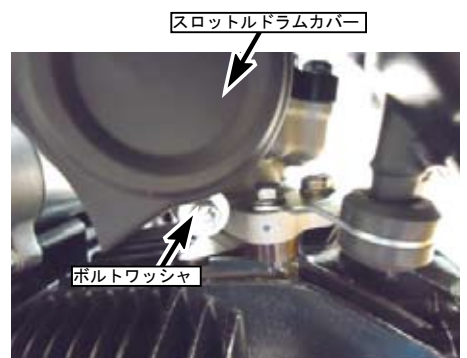
- ・インシュレーター両面のOリング2個が付いている事を確認して、インレットパイプとシリンダーヘッドの間にセットする。この時、インシュレーターのピンはシリンダーヘッド側に向ける。ボルト2本にてインレットパイプをシリンダーヘッドに取り付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：12N・m (1.2kgf・m)



- ・スロットルドラムカバーをボルトワッシャにて取り付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルトワッシャ
トルク：5.2N・m (0.5kgf・m)



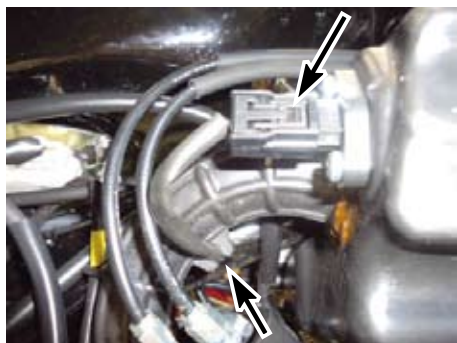
- ・仮止めしていたエアクリーナーのボルト2本を規定トルクにて締め付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：12N・m (1.2kgf・m)

- ・エアクリーナーケースにクランクケースブリーザーホース、フューエルブリーザーホースを接続する。



- ・エアクリーナーケースに吸気温センサーのカブラを接続し、配線をコネクティングチューブのクランプに取り付ける (GROM の場合)。



- ・スロットル開度センサー 3P カブラ、インジェクター 2P カブラ、ソレノイド 2P カブラ (GROM の場合) を接続する。



※ FI コン 2 または FI コン TYPE-e 取り付けの際には、その取扱説明書に従い作業を行う事。

<JC75-1000001 ~ の車両の場合>

- ・ジョイントホースを接続する。

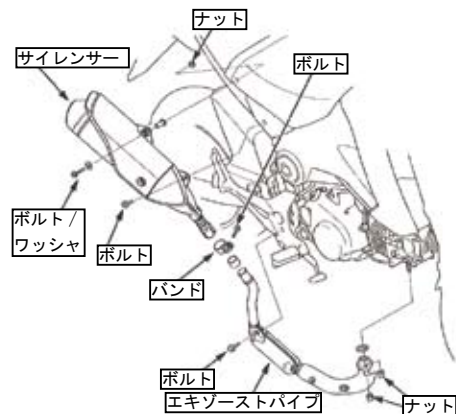


● (ノーマル) エキゾーストマフラーの取り付け

※エキゾーストマフラーがノーマル品から変更されている場合は、そのエキゾーストマフラーの取扱説明書に従う事。

<JC61-1000001 ~ 1299999 の車両の場合>

- ・ナット 2 個とボルト 1 個にてエキゾーストパイプを仮止めする。サイレンサーをエキゾーストパイプに挿し込みサイレンサーのボルト及びボルト / ナットを仮止めする。



- ・各部を規定トルクにて締め付ける。

▲ 注意：必ず規定トルクを守る事。

エキゾーストパイプ部のナット

トルク：27N・m (2.8kgf・m)

エキゾーストパイプ部のボルト

トルク：27N・m (2.8kgf・m)

サイレンサーのボルト / ナット

トルク：27N・m (2.8kgf・m)

サイレンサーのボルト

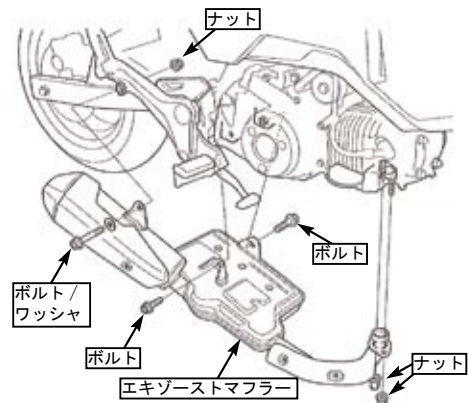
トルク：27N・m (2.8kgf・m)

バンドのボルト

トルク：20N・m (2.0kgf・m)

<JC61-1300001 ~ 1399999/JC75-1000001 ~ の車両の場合>

- ・各ボルト、ワッシャ、ナットを取り付け、エキゾーストマフラーを取り付ける。



▲ 注意：必ず規定トルクを守る事。

シリンダーヘッドエキゾーストスタッド部ナット

トルク：27N・m (2.8kgf・m)

エンジン下部のボルト 2 本

トルク：27N・m (2.8kgf・m)

サイレンサー部のボルト / ナット

トルク：27N・m (2.8kgf・m)

● 外装部品の取り付け

- ・純正サービスマニュアルを参考にして左右のシュラウドを取り付ける。

● FI コントローラーの設定

- ・FI コントローラーの設定をその取扱説明書に従い行う。

● 走行前の注意

- ・各部を点検し、ネジやナット等の緩みがないか確認する。
- ・エンジンオイルが規定量入っているか確認する。
- ・風通しが良く、安全な場所で十分注意してエンジンを始動し暖気運転させる。
- ・エンジンからの異音や、各ガスケット部からのオイルもれがないか点検する。
- ・エンジンを切り、充分冷えた後で各部を点検し、ネジやナット等の緩みがないか再度点検する。